

タイトル	献辞
著者	郡司, 淳; GUNSHI, Jun
引用	北海学園大学人文論集(60): 1-3
発行日	2016-03-31

献 辞

人文学部長 郡 司 淳

私どもの敬愛する常見信代先生が、2016年3月末日をもって退任されます。誠に残念ではありますが、ご退任にあたり、学部を代表して送別の辞を述べます。

常見先生は、1971年3月に北海道大学大学院文学研究科西洋史学専攻修士課程を修了後、同大学文学部助手、北海道女子短期大学助教授・教授、札幌国際大学短期大学部教授、札幌国際大学人文・社会学部教授を経て、1999年4月に北海学園大学人文学部に教授として着任されました。

先生のご専門は西洋史学で、北海道大学文学部に籍中からイギリス中世史の研究に着手され、卒業論文「中世後期のレスターシャにおける農業経営」はその優れた内容により、『北大史学』12号（1968年8月）に掲載されております。爾来40年以上にわたり、中世スコットランドとイングランドの研究に精力的に取り組まれ、井上泰男・木津隆司との共著『中世ヨーロッパ女性誌——婚姻・家族・信仰をめぐる』（平凡社、1986年）をはじめとする多くの成果を上げてこられました。

この間、先生が学界で重きをなしてきたことは、『オックスフォード ブリテン諸島の歴史』全11巻（慶應義塾大学出版会、2009～2015年）の監訳者の一人に名を連ねていることからもうかがわれます。ちなみに、先生のご担当になった第2巻『ポスト・ローマ』（2010年）は、その「練られた訳文」、「充実した索引と訳注」によって「日本でイギリス史を学ぶものにとって必須のリファレンス」（「2010年の歴史学界——回顧と展望——」『史学雑誌』第120編第5号）と位置づけられております。また、1995年5月には、「15世紀イギリス・ジェントルマンの衣生活」1・2（『衣生活研究』14巻8号／同9号、1987年12月／1988年1月）、「ハイランド・ドレスの歴史

をたどって」その1・2（『日本服飾学会誌』12号，1993年5月）などの論文で，服飾の問題を広くイングランドとスコットランドにおけるナショナルリズムやその基盤となる国内市場の形成に位置づけて解析した点が高く評価され，日本服飾学会賞を受賞しておられることも申し添えます。

先生のご研究は，イギリス史学界の最新の動向にも目配りした研究史の該博な知識をふまえ，厳密な史料批判と解釈に基づき考証を重ねることを基本的な作法としたもので，まさに19世紀のドイツに誕生した近代歴史学の王道を征くものです。先生には，近々，単著と編著を上梓されるご予定ともうかがっており，いまから楽しみです。

教育活動では，学部のヨーロッパ史（イギリス史）・英米文化講読・基礎演習・専門演習などに加え，大学院の英米文化専攻博士（後期）課程の欧米歴史・環境文化論文指導A・B・C，および修士課程の欧米史特殊講義I，欧米史特殊講義IA・IB演習を担当され，つねに学部・大学院の中心メンバーとして学部生・大学院生の指導にあたってこられました。そのさい先生は，毎年ゼミ生の卒業論文を上製本して一冊に編まれているように，ことのほか論文指導を重視しておられたように拝察いたします。その一端は，先生のゼミから多くの大学院生が輩出されたことにかがわれま

す。

学内委員としては，協議委員・学科委員・教務委員・大学院委員・公開講座委員長・基本権委員（学長指名）などを歴任され，大学運営に貢献してこられました。とくに2006年4月から2010年3月まで，2期4年にわたり務めた図書館長時代の業績は，特筆すべきものです。先生は，館長就任早々，図書館の電子化にともなう学校法人の雑誌費削減要求に対し，館員や委員を通じて学術雑誌の利用状況を調査され，その資料を基に法人と粘り強く交渉にあたられました。そのさい先生は，単に利用の多寡を論じるだけでなく，一人でも利用者がいれば，その教員の研究基盤を守るため，雑誌の受け入れを継続すべきと説かれたと人づてに聞いております。このように先生がつねに教員・学生の目線で館長の職務に取り組まれたことは，辞書・事典類の消耗品化やブックハンティングの開催などの事業に刻印さ

れております。また、先生は、設置準備委員として、大学院文学研究科修士課程英米文化専攻の開設にかかわり、今日の大学院教育の礎を築かれたお一人でもあります。

多くの教職員・学生が恩恵を蒙ったという点では、先生のご提案で食堂のラーメンに大盛りが導入されたことも特筆大書すべき業績？です。「これでは物足りない」という先生の強い思いが現場を動かしたのでした。思えば、先生は交渉の達人でいらっしゃいました。

先生には、以上のような研究・教育・大学運営における諸活動をとおり、本学の発展に寄与された功績により、2016年4月1日付けで名誉教授の称号が授与されることを付記いたします。

常見信代先生、どうか、いつまでもお元気で、後進の指導にあたられるとともに、大学と学部の将来を見守ってください。先生のますますのご活躍とご健勝を祈念し、はなむけの言葉といたします。